

# 7月11、12日の降雹等に対する農作物技術対策（第2報）

令和3年7月14日  
下都賀農業振興事務所

## I 大豆

### (1) 排水対策

明渠の排水溝が目詰まりしていないかを点検し、排水対策を徹底する。

### (2) 病害防除の徹底

葉焼病や斑点細菌病等が発生しやすくなるので、ボルドー剤(銅剤)等を予防的に散布する。

### (3) 肥培管理

早めの中耕培土を実施し、不定根の発生を促すとともに通気性を改善する。

傷害により生育が悪くなった場合には、開花期に窒素を10a当たり成分で5~10kg施用する。

### (4) まき直しの検討

被害が大きく生育に影響が出そうな場合は、播種量を多めにしてまき直すことを検討する。

## II 野菜

### 1 夏秋なす

#### (1) 草姿管理

損傷の大きい枝や葉を除去し、伸ばす枝をしっかりと固定する。

#### (2) 着果管理

傷ついた果実を摘除し、草勢の回復を促す。

#### (3) 肥培管理

草勢回復を図るため、必要により10a当たり窒素、加里を成分で各2~3kg追肥する。

#### (4) 病害防除の徹底

病害の発生が懸念されるため、予防的に登録のある殺菌剤を散布する。

#### (5) ほ場の修繕等

防風ネットの修繕、補強を行う。

### 2 ねぎ

#### (1) 肥培管理

草勢の回復を図るため、10a当たり窒素、加里を成分で各2~3kg追肥する。

#### (2) 病害防除の徹底

病害の発生が懸念されるため、予防的に登録のある殺菌剤を散布する。

### 3 ゆうがお、かぼちゃ

#### (1) 着果管理

主枝の損傷がひどく着果数が確保できない場合は、側枝発生を促し、着果数を確保する。

#### (2) 肥培管理

草勢回復を図るため、必要により10a当たり窒素、加里を成分で各2~3kg追肥する。

#### (3) 病害防除の徹底

病害の発生が懸念されるため、予防的に登録のある殺菌剤を散布する。

### 4 未成熟トウモロコシ

#### (1) 草姿管理

株の倒伏がひどい場合は、できる限り起こす。生育後期で起こす作業が困難な場合は、自力での立ち上がりを待つ。

#### (2) 肥培管理

草勢回復を図るため、必要により10a当たり窒素、加里を成分で各3kg程度追肥する。

### (3) 病害防除の徹底

病害の発生が懸念されるため、予防的に登録のある殺菌剤を散布する。

## 5 いちご

### (1) 病害防除の徹底

- ・病害の発生が懸念されるため、予防的に登録のある殺菌剤を散布する。
- ・特に炭疽病が発生しやすくなるので、排水対策を行う。

## 6 なら

「なら大雨・強風・降雹後の対策（R3.7.13 下都賀農振 HP 掲載）」を参照。  
(<https://www.pref.tochigi.lg.jp/g54/documents/20210713135758.pdf>)

## Ⅲ 果 樹

### 1 共 通

#### (1) 施設等の修繕

平棚や網棚等の施設、多目的防災網等の破損がある場合、早急に修繕する。

#### (2) 苗木等の管理

突風により苗木等が倒伏した場合は、直ちに起こして誘引し直す。

### 2 ぶどう

#### (1) 被害状況の確認

- ・降ひょうのあったほ場は、除袋して被害の状況をよく確認する。
- ・突風により新梢やカサが外れた場合は、新梢誘引やカサかけを見直す。

#### (2) 病害防除の徹底

- ・葉や新梢が損傷した場合は、速やかに殺菌剤を散布し、主要病害の発生予防に努める。
- ・袋かけが完了していないほ場は、薬液の付着汚れの少ない薬剤を選ぶ。

#### (3) 摘粒作業

- ・被害の少ないほ場では、傷や打撲した果粒を除去し、袋かけを行う。
- ・果粒軟化期以降の被害果房は、腐敗しやすいため、こまめに巡回して腐敗した果粒を取り除く。

#### (4) 新梢管理

葉や新梢の損傷がひどい場合は、副梢の多発が懸念されるため、摘心などの新梢管理を徹底する。なお、新梢の切り戻しなどの枝の整理は、副梢の発生を助長するので控える。

#### (5) 着果管理

葉の損傷がひどい場合は、被害のひどい果房から摘房するなど、必要に応じて着房数を見直し、樹勢維持を図る。